# 学校評価

# <報告>

令和2年度 総括

令和3年度 目標・計画

松江西高等学校

# 目次

目次 ・・・・・・・・・・・1 令和2年度<総括>・・・・・・・2~18
学校評価(重点課題・主眼を置いた取組・継続課題)・・ 4~ 8 分掌部評価(年間目標の点検・評価)・・・・・・・ 9~12 担任評価(担任振返シートによる点検・評価)・・・・・13~15 生徒評価(評価シートによる点検・評価)・・・・・16~18
令和3年度<目標・計画>・・・・・19~33
学校評価(重点課題・徹底したい取り組み等)・・・・21~24 分掌部評価(年間目標・計画)・・・・・・・・25~28 担任評価(クラス努力目標・振返シート)・・・・・29~32 生徒評価(チェックシート)・・・・・・・33
建学の精神/真に社会に役立つ実践的人材の育成
教育テーマ/未見の我の発見
<育てたい生徒像> 基礎・基本を身につけ、将来像をもった明るく活力ある生徒
基礎力 養成システム     本語乗力 学び直し 養成     礼儀 マナー     CCP 部活動 学校行事

図の 눛 印は本校が特に力を入れている取り組みです

# 令和2年度 松江西高等学校

# 自己点検・自己評価(PDCA)

# <目標・計画>

- 学校評価 (重点課題・主眼を置いた取り組み等)
- 分掌部評価 (分掌部評価表)
- 学級評価 (担任振返シート)
- 生徒自己評価 (生徒指導部)

# 令和2年度 学校方針

# 松江西高等学校 重点目標

# 重点課題

(令和3年度実施に向けて)

目の前にいる生徒に即 した魅力あるカリキュ ラム・学科・コースの 見直し









# 徹底したい取り組み

<u>①育てたい生徒像/基礎・基本を身につけ、将来像を</u> もった明るく活力ある生徒

- ■学習面(私は分かる)
- 高校生のための学びの基礎診断
- ・基礎力養成、学び直し、語彙力養成 (Literas 論理言語力検定)
- ・新しい授業のカタチ (2022 新指導要領実施準備) アクティブラーニング、反転授業等の実践とその評価 ネット学習動画 (スタディーサプリ等の活用)

### ■生活面(私は守る)

- ・慈にして厳なる指導
- ・いじめ防止対策(未然防止・早期発見とその対応)
- ・基本的生活習慣(時間・挨拶・マナー・規則順守)

### ■CCP教育(私は決める)

・総合探求学習・LHRを活用して2年までに進路の方向性 を

決定する

- ・将来像を持たせることで、日々の学習のモチベーション向 上につなげる
- ■部活動、行事の重要性(私は参加する)
- ・部活動、行事を通して明るさと活力を身につける

#### ②その他

- ・地方創生への取り組み/外部(行政・企業・大学・専門学 校など)との連携強化
- ・支援生徒への取り組み/特別支援、不登校支援・外国籍生 徒支援
- ・学校評価を通して学校運営の改善に努める

# 私学の原理・原則

①経営基盤(生徒数の確保 と維持)の確立の上に 理想があり、教育がある! ②生徒を大切にし、面倒見のいい 私学は生き残る!



③魅力、特色が形骸化し、工夫 のない私学は生き残れない!

# 令和2年度 松江西高等学校 学校評価 <重要課題>

	PLAN	DO	CHECK	ACTION			
重点目標	重点項目	具体的な取り組み	達成度判定基準	分析(成果と課題)及び改善策			
3つの生徒像	~どんな生徒を求めているか?~ ①これまでの義務教育を振り返り、 これからの高校生活を充実させる ための目標を持っている生徒 ②本校の教育テーマである「未見の 我の発見」に向けて努力する生徒	①、②については入試説明会、中学校訪問等で伝える。特に①については専願生の面接項目に入れる。	A ® C D	①・②ともに説明会等での案内を丁寧に実施できた。面接時の内容で学び直しと部活動をあげる生徒が多く、浸透してきている。今後はより深化していきたい。(校長)			
	~どんな生徒を育てたいか?~ ・育てたい生徒像である「基礎・基 本を見につけ、将来像を持った明る く活力ある生徒」を育てる	基礎学力、基本的生活習慣、キャリア教育、部活動・学校行事を通して、社会人としての基盤をつくる。また学期ごとにアンケートを実施し、定着度を確認する。	A ® C D	1年生の学び直し、2年生の基礎力診断 テスト、3年生の SPI・スタディサプリ と、自己実現に向けて繋げることがで きつつある。但し、今後は生徒自らがよ り主体的に取り組めるようにアプロー チをする必要がある。(校長)			
	~ どんな社会人になってほしいか?~ ・ローカルマインドを持った地域社会に貢献できる生徒(ローカルマインドとは、地域を知り、地域を愛する心のこと)	約七割の生徒が地元に残る現 状を踏まえ、地域と連携、協力 して地方創生に協働する人材 を育てる。	A B © D	上記の「育てたい生徒像」を実現してい く過程の中で、より地域社会や地元の 機関と連携を取りたいものである。コロナ禍の中で行事等も制約を受けた が、次年度は具体的に動かしたい。(校長)			
課題	魅力あるカリキュラム・学科・コー スの見直し	目の前にいる生徒に即した魅力あるカリキュラム・学科・コースを構築する。	A B C D	関係の先生方とカリキュラムや学科・コースの見直し等検討が進んでいる。 次年度具体化させたい。(校長)			

# <徹底したい取り組み>

			\1敗)広したい以り	<u> </u>	
		PLAN	DO	CHECK	ACTION
重点目標		重点項目	具体的な取り組み	達成度判定基準	分析(成果と課題)及び改善策
将来像をもった明るく活力ある生徒育てたい生徒像/基礎・基本を身につけ、		高校生のための 「学びの基礎診 断」	年間1回(9月)実施することになった。本校にとって大きな 指標にしたい。	A B © D	特進コースでは「学びの基礎診断」に 対応したテストを行ったが、それ以外 では実施していなかった。来年度から は全クラスで実施する。(和田)
		基礎力養成対策	A~D層のうちD層の減少を 目標とする	A B © D	例年通りの「D3-」層への補習を行ったが、それ以外にあまり時間が取れず、成果は高くなかった。事前・事後学習の充実を図る。(和田)
	基礎学力養成	学び直し	ベネッセ教材を活用し中学校 時の積み残しを学び直し、高校 教育課程へつなげる	A B © D	新型コロナの影響による休校で、学び 直しに割ける時間が少なかった。計画 的に進められるようにしていきたい。 (和田)
		語彙力養成	本校の生徒に合った題材を準備し、楽しく語彙力が身に付くように工夫し、Literas 論理言語力検定の合格者を増やす。	A B C D	休校期間や SHR での検温実施もあり、 朝学習が中途半端な実施に終わって しまった。校内漢字テストや基礎カテ ストなどの各種検定や校内行事に配 慮する必要もある。11 月の検定に向け ては学園祭終了後(9 月以降)から過去 問・模擬問題を効果的に活用して、合 格者数増加につなげたい。

		T		T
新しい授業のかたち	アクティブラーニング等 による「生徒参加型授 業」の取り組み	「知識・技能」の習得からその 活用へ重点をシフトし、生徒を 主体とする授業の形成に努め る。	A B © D	様々な工夫をして授業を展開できる 教員が増えていると感じるが、感染症 対策の観点からできることがかなり 制限された。また、ICT 環境が十分で ないので、設備の整備が急務であると 感じている。(和田)
	基礎学力基盤養成	ベネッセのクラッシー学習サポート(動画学習) の活用による基礎学力の定着 に努める。	A B © D	休校期間に学習動画の課題を配信したが、それ以降で活用する場面が作れなかった。基礎カテストの事前・事後学習で活用していく。(和田)
ICT等の活用	進学するための学力養成	リクルートのスタディーサプ リの活用による実力養成に努 める。	A ® C D	週末課題を習慣化し、学習のペースが 作れた。自発的に取り組む生徒が出て くるように工夫したい。(和田)
用	就職するための学力養成	SPIの活用による就職試験 に合格できる学力の養成に努 める。	A B © D	2・3 年生を対象に定期的な校内試験を計画・実施した。その結果をもとにして、3 年次の校内選考等の資料にすることでモチベーションをアップさせている。(加藤・加納)
	朝読書の推進	8:30~8:40 朝読書(月、金)を 実施する。(読書週間読み聞かせ)	A B © D	朝読書は担任に委託しているが、時間 的に厳しい。秋の読書週間には全校一 斉読み聞かせを2回実施した。(柏尾)
	校内漢字テスト	年6回の漢字テスト、3回の漢 字検定を実施する。	A B C D	漢字テストや検定に向けて練習問題 に取り組ませることができた。(小澤)
	各種検定資格取得	<総合ビジネス科> 簿記、情報、ワープロ、電卓、 介護職員初任者研修(旧ホーム ヘルパー2級)等の資格取得に 努める。	A B C D	全商簿記 3 級 37 名, 2 級 3 名, 1 級 1 名 全商電卓 3 級 77 名, 2 級 52 名, 1 級 39 名 全商ビジネス建 3 級 82 名, 2 級 18 名, 1 級 4 名 全商情報処理 3 級 40 名, 2 級 4 名, 1 級 1 名 商業経済 3 級 23 名, 2 級 2 名, 1 級 1 名 介護職員初任者研修 11 名 (加納)
検定その他		<普通科> 漢検・英検・日本語検定・語彙 力検定等の資格取得に努める。	A B C D	日検ワープロ検定 3 級 12 名 日検情報処理検定 3 級 27 名, 準 2 級 1 名 (加納) 全商英検 1 級 1 名 ⇒ 0 名 3 級 7 名 ⇒ 12 名 実用英検 準 1 級 2 名 (昨棟乗業) 2 級 1 名 準 2 級 1 名 準 2 級 1 名 漢字検定 2 級 1 名 3 級 21 名 名 準 2 級 1 名 3 級 21 名 3 級 18 名 ⇒ 14 名 4 級 0 名 ⇒ 0 名 (田中) Literas 論理言語力検定 合格者は 2 級 15 名、3 級 71 名 (1 年 生 55 名・2 年生 16 名)であった。 2019 年度に比べると 3 級 10 名 生 55 名・2 年生 16 名)である格は 一20 名と大幅減。原因としはもとと り、Literasの周知が弱か長で 関機会が少なか用知が弱いたでである。 は、してである。情報理解力(大でである。 が全国的に比べて 20%以上も低いため、この対野の底上げが必要である。 は、ため、この対野の底上げが必要である。 日本語検定 未実施(日野)

基本的生活習慣と生徒指導	社会性の育成	社会規範を示し、将来社会人として自立するための基本を身につけさせる。校内外パトロールを通して本校生徒の実態を把握し、正しい方向に導く。	A B C D	校内パトロールを実施。ゴミ等の散乱 もなく落ち着いていた。(原田)
	服装・頭髪	月1回全校一斉検査を実施し、 改善まで徹底指導する。	A B © D	女子のスカート・ソックスについては 継続的な指導が必要である。(原田)
	挨拶	全職員による日頃の地道な指 導が大切。	A B © D	自主的に挨拶をする生徒は運動部に 限られる状況。(原田)
徒 指 導	マナー	根負けしない教職員の指導が 大切。	A B © D	自転車のマナーについて、外部からの 苦情がある。(原田)
	いじめ問題	いじめは未然防止に尽きる。日 頃からの全職員による観察が 肝要である。いじめは絶対許さ ない姿勢を日々示す。	A B C D	各学期でアンケートを取っている。また、生徒からの悩みに対し、学年部・ 生徒指導部で迅速に対応した。(原田)
			A B C D	〈1年〉探究学習が実施されたため、2 回の実施であったが、概ね良好な成果 であった。(日野)
将来像	C C P 教育 (キャリア教育)	CCP教育を基盤とし、将来像を描ける生徒になるよう、キャリア教育に努める。	A B C D	〈2年〉探究学習と小論文学習に重点 を置いて指導した。(柏尾)
			A B © D	〈3年〉各分掌が連携して指導に当たることができなかったと感じた。(杉田)
	進路ガイダンス	進学に関するガイダンス	A B C D	4月/進路ガイダンス(3年) 6月/進学ガイダンス(1·2年) 9月/進学ガイダンス(1·2年) 12月/進学ガイダンス(1·2年) 3月/進学ガイダンス(1·2年) 進路意識を高めるため、今までより早い学年・時期で計画した。しかし、コロナ禍により中止や縮小となった。 (加藤・和田)
		就職に関するガイダンス	A B C D	4月/進路ガイダンス(3年) 7月/高校生ジョブフェア(3年) 7月/就職ガイダンス(3年) 9月/就職受験出発式(3年) 2月/就職内定者研修 4月のガイダンスで就職希望者には面接指導を入れるなど、例年より早い取り組みを計画したが、コロナ禍により中止や縮小となった。(加藤)
	職場見学、職場体験等の活用による離職対策	安易な職業選択による離職率 は増加の傾向にある。職場見 学、職場実習の機会を増やすな ど、離職率減少対策に努める。	A B C D	2年生3月のガイダンスでは地元企業を知る機会を設けた。就職試験が1か月後ろ倒しになったことで、職場見学の期間を長く設定し、ミスマッチとならないように努めた。(加藤)
	行事を大切にする	師弟が結束して行事に取り組 み、行事を通してクラス、学年 の帰属意識を高める。	A B C D	学年部での違いは多少あるものの、 年々学年内のまとまりは出てきてい る。コロナ対策を取りながら可能な限 り行事を行い、帰属意識を高めていき たい。(安達教頭)
明るく活力	部活動に入る/ 入部率向上	入部率70%をめざす。	A B C D	昨年より若干加入率が上がっている。 中途退部する生徒もあり、出来るだけ 継続させたい。勝利至上主義ではな く、生徒自らが主体的に取り組み成長 できるよう関わりたい。(安達教頭)
为	特待生の積極的な勧誘で 学校活性化に努める。	部活動をけん引する特待生の 確保に専念する。 (目標30名)	A B © D	目標に届かず、昨年より5名減じた。校長推薦のハードルが高くなっており、中学校によっても状況が違う。ポートフォリオの制度も活用し、魅力ある部活動を運営し、目標達成を図りたい。(安達教頭)

# <継続して取り組む課題>

PLAN		PLAN	DO	CHECK	ACTION
重点目標		重点項目	具体的な取り組み	達成度判定基準	分析(成果と課題)及び改善策
①生徒数の確保	入学生	定員176名確保	本校の取り組み・魅力を積極 的にPR。中学校訪問回数を 増やす。	A B C D	入学生 159 名。コロナ禍の中、説明会や体験入学など広報活動が制限される中でも、学校紹介 PV の作成や部活動体験等新しいことを取り入れ入学生確保に努めた。(松浦)
	志願者	数700名	多様化する生徒に対応した 本校の受験型と特待制度の 浸透に努める。	A B C D	志願者総数 746 名。昨年度に続いて雲南 地区、安来地区の受験希望が多かった。 コロナ対策もあり、雲南地区は 2 会場で 入試を行った。(松浦)
	マスコ	ミ・メディアの活用	本校の行事等をマスコミに 積極的に報道依頼する。	A B © D	体験入学等でのマスコミへの依頼ができなかった。(松浦)
	効果的	<b>Jなイベント</b>	本校に興味・関心が向くよう なイベントを工夫する。	A B C D	例年通りの夏の体験入学ができなかったので、9月の土曜日に実施をした。秋ということもあり、部活動体験と抱き合わせで実施することができた。部活動目当てで参加する中学生も多く、良いものとなった。(松浦)
	入試の	)改善	改善すべき点、新しく導入す べき点等を検討する。	A B © D	推薦入試・一般入試共に昨年度と大きく変わっていない。一般入試については、作問ミスがいくつかあり、校正での丁寧なチェックがもっと必要であると強く感じた。(松浦)
	塾対応	;	塾への訪問回数を増やし、本 校の PR に努める。	A B © D	依頼のあった塾に対しては、過去問題と ポスターを配布している。今後必要に応 じて訪問する機会を増やしていきたい。 (松浦)
②生徒数の維持	退学10名、転出10名、計20名までに留める		日頃の出欠状況に注視し、安 易な退学、転出の予防に努め る。	A B C D	今年度は7名の退学、8名の転出であった。昨年度より10名減となった。次年度も一人でも減少するよう努めたい。(校長)
		不登校の問題	中学校、支援組織等からの情報を収集し、保護者との協力のもと不登校の改善に努める。	A B C D	不登校傾向にある生徒に対して学習室を提供し、8名の利用があった。そのうち2名は教室復帰をすることができた。また、今年度は週8時間授業を行うことができた。(小田原)
(3)	支援生徒	特別支援生徒	実態をまず把握し、中学校、 支援団体等からの助言を得 ながら、連携して合理的配慮 に努める。	A B © D	4月の職員会議において、生徒の状況について全教職員に共通理解を図った。スクールカウンセラーや外部の支援・相談機関と協力し、個々の生徒の状況を把握し支援に努めた。(小田原)
③その他	土徒への対応	外国籍生徒学習支援	同時通訳機や日本語指導員 等を活用し、言葉の壁を軽減 したい。学習評価も合理的配 慮が必要な場合はその都度 検討する。	A B C D	三者面談や入学前登校日(一日入学)での通訳の来校依頼、保護者宛て文書の翻訳(ポルトガル)、考査問題の日本語ルビ振りなどの支援を今後も継続して行いたいと考えている。県立大学生の日本語ボランティアの生徒たちの「日本語教室」(2020 年度はコロナ禍のため未実施)もタイミングを見て復活させたい(2019年度は毎週金曜日に実施)。(広瀬)
		合理的配慮	保護者、担任等からの申し出 を受け、その都度、検討し、 生徒の困り感を軽減する。	A B C D	今年度は特段配慮に関する相談は受けていないが、担任を中心に今後も配慮できるよう用意をしておきたい。(安達教頭)

		ふるさと教育の実践	ふるさとを知り、ふるさとを 愛する人材の育成に努める。	A B C	D	進路指導部による企業ガイダンス等を 実施でき、地元の企業を知る機会ができ たことは大きい。地域の行事は軒並み中 止のため、参加する機会はなかった。(校 長)
	地方創生	地域に貢献する人材の育成	地域に根差し、地域を支える 人材の育成に努める。	A B C	D	県内就職率は84%を超え、地域に貢献することができた。進学者を入れると、県内に残る生徒は65%を切ったが、質・量ともに貢献できるよう努力したい。(校長)
		自治会等の連携活動	自治会との連携を密にし、お 互いに助け合う関係を築き たい。	АВС	D	地域の行事やレクリエーション等もコロナの影響で殆ど無かったため、関わりを作れなかった。次年度は機会が作れるとよいと思っている。(校長)
	学校評価の推進と学校運営の改善	学校評価	学校の年間重点目標と戦略 をPDCAを通して、全体評 価する。	A B C	D	生徒がより良い教育を享受できるよう、 その教育活動等の成果を検証し、学校運 営の改善、発展を目指したい。 (客野教頭)
		分掌部評価表	各学期末、年度末に自己点 検・自己評価を実施する。	A B C	D	より効率的な学校運営と確実な業務遂行につなげたい。(客野教頭)
		担任振返りシート	各学期末、年度末に自己点 検・自己評価を実施する。	A B C	D	1年間のクラスの生徒との関わりで、今後も指導を継続させたい内容などを明らかにし、次の学年につなげたい。 (客野教頭)
		クラス努力目標	努力目標をクラスに掲示し、 振返りシートで反省、改善に 努める。	A B C	D	折に触れ、自分たちの言動について、振 り返るものとしていきたい。 (客野教頭)
		生徒自己点検	各学期末、年度末に自己点 検・自己評価を実施する。	ав©	D	相変わらず評価の低い項目については、 教員側の指導方法を見直していく必要 がある。(客野教頭)
		シラバス学習指導計画	各学期末、年度末に自己点 検・自己評価を実施する。	A B C	D	休校等があり、計画が立たないこともあり、学年末に報告書という形で提出。(坂田)
		授業評価	Classi によるアンケート調査を実施する。	A B C	D	未回答生徒をなくし、有効活用に努めた い。(坂田)

# <集計>

(51)
------

# 令和2年度 松江西高等学校分掌部年間目標と計画

#### 1. 教育理念

#### (1) 本校の使命(ミッション)

建学の精神である「真に社会に役立つ実践的人材の育成」を使命とする。基礎・基本を身につけ、人格の形成に主眼を置いた教育実践を通して、地域に根差し、地域の期待に応える学校づくりを推進する。

#### (2) 使命の追求を通して実現しようとする本校の生徒像(ビジョン)

本校の育てたい生徒像である「基礎・基本を身につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」具現化のための重要ポイント

- 1. 基礎力養成補習、学び直し、語彙力養成を通して基礎学力を養成させる
- 2. 平素の学校生活を通して正しい服装と礼儀・挨拶を習得させる
- 3. CCP教育、インターンシップを通して将来像を持たせる
- 4. 部活動、学校行事を通して明るさと活力を身につけさせる

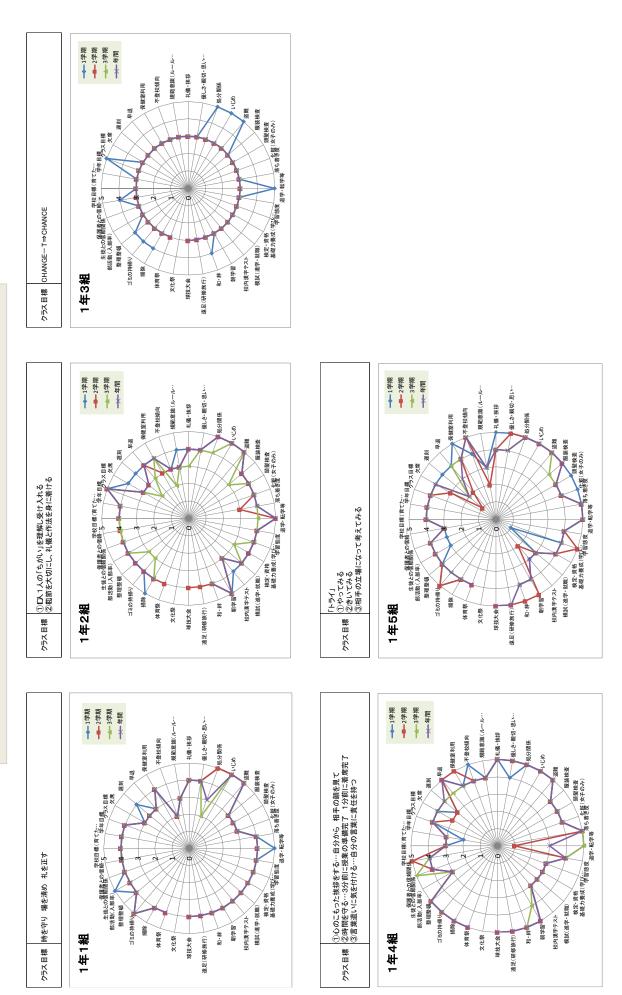
2.	分掌部	年間目標・計画・評価		評価 1 よくできなかった/ 2 まずま	ずだったノ	/ 3 大	変よくでき	きた
分掌		年間重点目標	当 担	目標達成のための計画	評価 (1学期)	評価 (2学期)	評価 (3学期)	評価 (学年)
	① 受	①体験入学参加者 300 名の 確保(昨年 228 名)				2		2
	①受験者数・	②中学生・保護者対象入試 説明会参加者 550 名の確保 (昨年 530 名)	λ	│ │ ・松江西高タイムス・学校案内発行 │ ・学校紹介ビデオ・パワーポイント作成		2		2
	入学	③受験者数 700 名の確保 (昨年 606 名)	入 試 課	<ul><li>・中学校における進路説明会実施</li><li>・中学校教員対象入試説明会実施</li></ul>			3	3
	入学者数の確保	④入学者 176 名の確保 (昨年 174 名)		・中学生・保護者対象入試説明会の実施			2	2
総務部			総務課	・年間行事計画作成・調整 ・職員会議企画・運営、会議録の作成・資 料保管 ・学校要覧、職員名簿・緊急連絡網・身分 証明書等の作成 ・100 周年資料の収集・整理・保管	2	2	2	2
	②円滑な学校運営	式 典 課	入学式、卒業式、始・終業式等の企画実施	2	2	2	2	
		総 務 課	入学試験の企画・実施、入試関係事務処理	2	2	2	2	
			入 試 課	専願合格者入学前指導、新入生一日入学 企画・実施			2	2
			厚生課	・各種育英資金募集についての連絡・相談 ・学校生協関係の連絡・事務 ・慶弔に関する庶務	2	2	2	2
	③施設設備の管理・保全		施 設 課	・校舎・施設、机・椅子等の破損調査整備 ・校舎内外の環境整備・美化	2	2	2	2
	④防災体制の確立 ⑤学校広報の推進		総施務課	・防災組織の整備、研修・訓練の実施と 検証 ・防災教育の企画・実施 ・緊急時一斉メール配信システムの整備 と管理 ・防災設備の点検・整備	1	2	1	1
			施 設 課	・西高だより(年2回)・「がんばれ西高!」 (随時)発行 ・学校ホームページ更新	2	2	2	2
	0	①授業の管理 (自習時間の削減)		・授業変更は原則1日4時間以内で、同一クラス同一教科が無いようにするが、できない場合は自習とし、学年部等に依頼する。	3	2	3	3
教務部	②授	業時数の確保	教 務 課	・時間短縮等で学校行事等とのバランス をとる。	3	3	3	3
41.	3基	礎学力の向上に努める	m*1*	・補習の計画に取り組む。	3	2	3	3
	4新	課程への対応		・新カリキュラム作成	2	2	2	2

	l	<b>光学化送如したノフェー! イニュニュ</b>		I		
⑤基礎学力の向上に努める	学習指	<ul><li>・進字指導部とタイアップしてD3の減少を図るとともに、全体のレベルアップに努める。</li></ul>	3	3	3	3
⑥朝学習の活用	導 課	・朝の語彙力養成の定着に努める。	2	2	2	2
⑦公開授業を行うと共に、授業 改善課と連携	研修課	・教科主任と協議してベテラン・中堅・若 手の数、教科のバランスを考慮する。	2	2	2	2
⑧読書週間(読み聞かせ)の活用	図書課	・朝読書への取り組み	2	2	2	2
⑨授業の工夫	+ <u></u>	・機器の利用等	2	2	2	2
⑩アクティブラーニング	業改善	・研修会の実施	2	2	2	2
⑪総合学習と総合探求	眯	・学年主任との協議と外部情報を考慮	2	2	2	2
①環境美化の推進		・ゴミ分別の円滑化 ・清掃活動	2	2	2	2
②健康管理の徹底	保健課	・生活改善(朝食・睡眠・スマホ)に向けた指導の充実を図る。 ・健康観察などからの情報収集により身体、心の問題の早期発見、早期対応を図る。	3	3	3	3
③各諸問題に関わる研修		・時代に対応した各種研修を実施。	3			3
④保健部に関する各種統計		<ul><li>・保健室利用者及び疾病の種類の把握</li><li>・利用者数の把握 各検査健診結果統計</li></ul>	3	3	3	3
①あいさつの充実	生徒指	生徒会・学年部との連携	2	2	1	2
②身だしなみを整える		頭髮、服装指導(各学期1回)	1	2	2	2
③時間を守る		授業管理の徹底、意識啓発、遅刻対策	2	1	1	1
④掃除の励行	課	保健部や生徒会との連携による推進	1	1	1	1
⑤各種規定の見直し		関係各所への聞き取り、調整	1	2	2	2
⑥校内の生徒指導体制の確立		課会開催、意見集約、聞き取り調査	2	1	1	1
⑦法令遵守の精神を養う		交通マナー指導、運転免許取得指導	1	2	2	2
⑧交通事故を防ぎ、生徒の命を 守る。	交通指道	街頭指導による声掛け、通学経路指導、変 形自転車指導	1	2	1	1
9自転車盗難、トラブルの防止	課	自転車ステッカー貼付・施錠指導	2	2	2	2
⑩学園祭の充実	生徒	各クラスへの積極的働きかけ		1		1
⑪生徒会行事運営の円滑化	会 課	生徒会内での連携強化	2	2	2	2
	<ul> <li>⑥朝学習の活用</li> <li>⑦公開授業を行うと共に、授業 改善課と連携</li> <li>⑧読書週間(読み聞かせ)の活用</li> <li>⑨授業の工夫</li> <li>⑩アクティブラーニング</li> <li>⑪総合学習と総合探求</li> <li>①環境美化の推進</li> <li>②健康管理の徹底</li> <li>③各諸問題に関わる研修</li> <li>④保健部に関する各種統計</li> <li>①あいさつの充実</li> <li>②身だしなみを整える</li> <li>③時間を守る</li> <li>④掃除の励行</li> <li>⑤を種規定の見直し</li> <li>⑥校内の生徒指導体制の確立</li> <li>⑦法令遵守の精神を養う</li> <li>⑧交通事故を防ぎ、生徒の命を守る。</li> <li>⑨自転車盗難、トラブルの防止</li> <li>⑩学園祭の充実</li> </ul>	(⑥朝学習の活用	①公開授業を行うと共に、授業 で整課 ・教科主任と協議してベテラン・中堅・若 手の数、教科のバランスを考慮する。 ② 静謀・連携 ・ 朝膝書への取り組み ・ 朝膝書への取り組み ・ 頻響の工夫 ・ 頻響の一次 ・ 一次 ・	多数	<ul> <li>⑤基礎学力の向上に努める</li> <li>⑥朝学習の活用</li> <li>⑦公開授業を行うと共に、授業 改善課と連携</li> <li>・ 敬の設象力養成の定着に努める。</li> <li>② 2</li> <li>② 2</li> <li>② 2</li> <li>② 3</li> <li>● 敬の設象力養成の定着に努める。</li> <li>② 2</li> <li>② 2</li> <li>② 4</li> <li>● 敬料主任と協議してペテラン・中室・著 手の数、教科のパランスを考慮する。</li> <li>② 2</li> <li>② 2</li> <li>② 2</li> <li>② 3</li> <li>● 被書週間(読み間かせ)の活用</li> <li>● 授業の工夫</li> <li>● で学生任との協議と外部情報を考慮</li> <li>② 2</li> <li>② 4</li> <li>● 学年主任との協議と外部情報を考慮</li> <li>② 2</li> <li>② 4</li> <li>● 学者主信との協議と外部情報を考慮</li> <li>② 2</li> <li>② 4</li> <li>● 学者主信との協議と外部情報を考慮</li> <li>② 2</li> <li>② 4</li> <li>● 学者主信との協議と外部情報を考慮</li> <li>② 2</li> <li>② 4</li> <li>● 生活場の予算を図る。</li> <li>● 時間の財産といる機構の必要に対しると関連、の限期のといると関連、のの関連の単規乗見、早期対応を図る。</li> <li>● 時代に対応した各種研修を実施。</li> <li>③ 3</li> <li>3</li> <li>● 保健室利用者及び疾病の種類の把握・利用者数の把握・利用者数の把握 ・利用者数の把握 ・利用者数の把握 ・利用者数の把握 ・利用者数の把握 ・経済・学年部との連携</li> <li>② 2</li> <li>図 2</li> <li>日 2</li> <li>日 2</li> <li>日 2</li> <li>日 2</li> <li>日 3</li> <li>日 4</li> <li>日 5</li> <li>日 6</li> <li>日 6</li> <li>日 7</li> <li>日 7</li> <li>日 8</li> <li>日 9</li> <li></li></ul>	

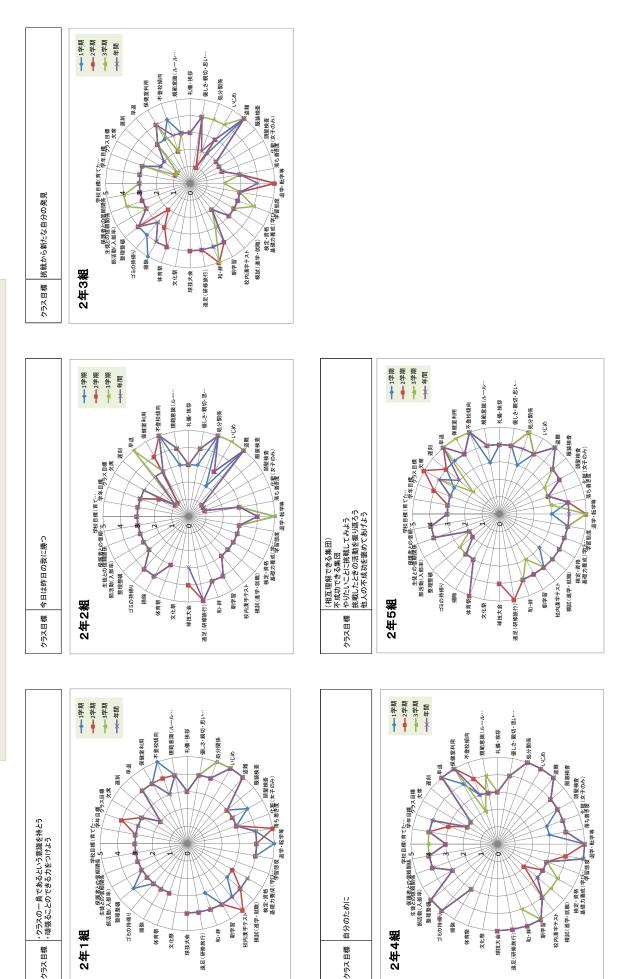
	⑪人権尊重と差別のない学校 づくり	人 権	教職員研修の実施	1	1	1	1
	③反差別の仲間づくりと生徒相互 の人間関係の構築	人権同和課	校外での講演会参加の呼びかけ アンケートQUの実施	2	1	1	1
	①生徒の進路保障 ・学校斡旋による就職内定率と 定着率の向上を目指す。 (学校斡旋内定率 100%) (3 年以内離職率 20%以内) ・縁故就職者への支援 (ビジネスマナーの定着) ・公務員希望者への対応		・適性に応じた指導、面談を重ねて生徒、 保護者の意向や希望の集約をする。 ・基本的生活習慣や学力を身につける ・遅刻・欠席の多い生徒ややる気のない生 徒への対応 ・ハローワークや関係諸機関との連携を 強化 ・早期離職を防ぐためにジョブフェアや 応募前見学等を活用 ・夏季補習や採用試験に対応できる対策 をとる。(作文・SPI検査など)		2	3	3
	<ul><li>②社会人としての素養を高める・キャリア教育の実施。・社会人基礎力を育てる。「遅刻・欠席をしない」「挨拶をする」「コミュニケーションが取れる」</li></ul>	職業指導課	・校内での挨拶・言葉の使い方・服装頭髪 ・外部講師による講話やマナー指導実施 ・面接指導を通して、社会人としてのマナ ーを身につけさせる。また、自分の意見 をきちんと伝えられるようにする。	2	2	2	2
進路指導部	③インターンシップの実施 ・2 年生の 10 月~11 月実施		・インターンシップの実施により、上記に ある社会人としての素養を高め、 「卒 業後は社会人になる」という意識を学年 全体・学校全体で持つようにする				
	④応募前見学、企業ガイダンス の実施 ・県、市、ハローワークと連携		・求人票だけでなく、ガイダンス・職場体験を通して実際の仕事や職場の状況を知り、職場選択の取り組みを促す。 ・就職先の新規開拓をする。		3	3	3
	⑤総合ビジネス科生徒の上級資格取得者に対して、上級学校(できれば国公立大学)への進学を促す。 (昨年0名→3名以上)		・本人の希望に合わせて、上級資格を利用 できる入試がある上級学校を紹介する。 ・選抜方法に合わせた個別の受験対策を 早期より行う。			2	2
	<ul> <li>⑥国公立大学合格者を数名出す</li> <li>・国公立大学の合格者数を昨年以上にする (昨年1名→3名以上)</li> <li>・大学・短大の合格者割合を増やす。 (昨年40%→45%へ)</li> </ul>	進学指導課	<ul> <li>・進学希望者対象補習を早期より計画的に行う。</li> <li>・総合型・学校推薦選抜に向けた小論文対策として5月に添削模試を行う。</li> <li>・大学、短大、専門学校との連携の強化・拡大を図る。</li> <li>・模試を有効に活用(特に、復習と学習方法の検討)する。</li> </ul>			1	1
	⑦スタディサプリの有効活用 ・特別進学コースにおいて、家庭学習を定着させて受験の基盤となる学力を身につけさせる。 (平日1年1h、2年2h、3年3h 休日1年3h、2年4h、3年5h ※3年部活動生徒は-1h)		・週末課題→週明けチェックテスト→復習の流れで家庭学習のきっかけをつくる。 ・到達度テストの結果から個別の学習計画を各自で作成する。 ・学習シートを用いて学びの振り返りをすることで学習に対するメタ認知をさせる。 ・各学期に 1 回家庭学習時間調査を実施し、反省や改善の材料とする。		2	2	2
	<ul><li>⑧Classiのポートフォリオ機能の活用・新入試に対応できるようにポートフォリオを記録する。(提出率100%になるように)</li></ul>		・年間計画を立てて担任からポートフォリオ課題を配信する。 ・大学入試制度の変化によるポートフォリオの必要性を説明する機会を作る。		2	2	2

	①出席率を95%以上に		・担任と教科担当とのコミュニケーションを大切にする ・担任の個性を生かしたクラスづくりをするとともに、いじめや無視など、日々の生徒の変化に迅速に対応する	3	2	2	2
学年部	②転退学者6%以下に	一 年 部	・保護者への電話連絡や家庭訪問を必要に応じて行う ・各委員会の長との連絡を密にし、生徒の情報を共有する	3	3	3	3
	③遅刻率を5%以下に		・始業のチャイムとともに行動させる ・HRを通じて、基本的生活習慣を身につけることの大切さ、その行動が進路決定に影響するということを理解させる	2	2	2	2
	④部活動入部率を70%に		・部活動や全ての学校行事等にポジティ ブに挑むとともに、協調性を身につけ、 その大切さを学ばせる	2	2	2	2
	①基本的生活習慣の確立 ・遅刻率を3%以下に (昨年度末 3.8%) ・出席率を95%以上に (昨年度末 93.8%) ・皆勤者を30名以上に (昨年度末 14名)	二年部	・朝学習を充実させることで40分には 教室に入る理由作りをして遅刻しない ように指導する。 ・欠席が多いと進路に影響することを理 解させ、生活のリズムを作らせる。	3	2	2	2
	②基礎学力向上と学習習慣の涵養 ・漢字テスト平均点 70点以上 ・論理言語力検定 3級以上合格 ・各種検定試験(3級以上)へ挑戦		・新聞、本を読むことを勧める。 ・進路先に提出する書類に記入できるような各種検定試験の3級以上の合格を目指し、学習習慣を身につけさせる。 ・合格することで自信をつけさせる。	3	3	3	3
	③ 1 2 9名全員の進級 ・年度末の追試対象者数を 1 5名 以下に		・授業に集中させる。 ・普段の授業を大切にさせ、保健室の利用 を少なくする。	3	2	2	2
	④将来のビジョン化 ・進路選択能力の育成 ・コミュニケーション能力の向上 ・マナーや言葉遣いの習得		・CCPや探究学習、小論文学習の授業を充実させる。 ・面談はもちろんのこと普段の生徒との会話からもコミュニケーション能力の向上を目指し、進路選択や研修旅行が意識できるような仕掛けをしていく。 ・進路ガイダンスや公演会等で外部講師の方から刺激を与えてもらい、生徒が将来のことを考える機会を増やす。 ・研修旅行等を通し社会性を身につける。	3	3	2	3
	①146名全員の卒業を達成!		・基本的な生活習慣を高次元で確立させるとともに、服装や頭髪を整え、「今から就職(進学)試験があっても行ける!」レベルを要求する! ・様々な学力層の生徒が在籍しているが、	3	3	3	3
	②検定1級3種目合格者を6名以 上に!			2	1	1	1
	③出席率を97%以上に!			2	2	2	2
	④遅刻率を2%以下に!		全ての生徒が「学力」の向上に努め、朝 学習や総合学習、LHRなどを活用して 自学自習のできる学年を目指す。	2	2	2	2
	⑤漢字テストの学年平均点を 70 点以上に!	年部	・新しく導入される生徒手帳の有効活用 を目指し、伝達の記入は勿論、行動記録	1	1	1	1
	⑥国公立大学(短大)進学者を3名 以上に!	- 当i	を残して「いつまでに・何をするか?」 を明確にしてスケジュール管理をさせ ていきたい。	1	1	1	1
	<ul><li>⑦GTZがA以上の大学進学者を 5名以上に! *GTZ…学習到達ゾーンの略 (ベネッセ社)</li></ul>		・学年部として生徒の進路決定は勿論であるが、正しい職業観や倫理観を育み、 周囲と強調することのできる「実践的人材」を育てるため、厳しく指導していき	1	1	1	1
	⑧学校斡旋による就職合格率を 100%に! (3年以上の定着を目指して指導 する)		たい。	1	1	1	1

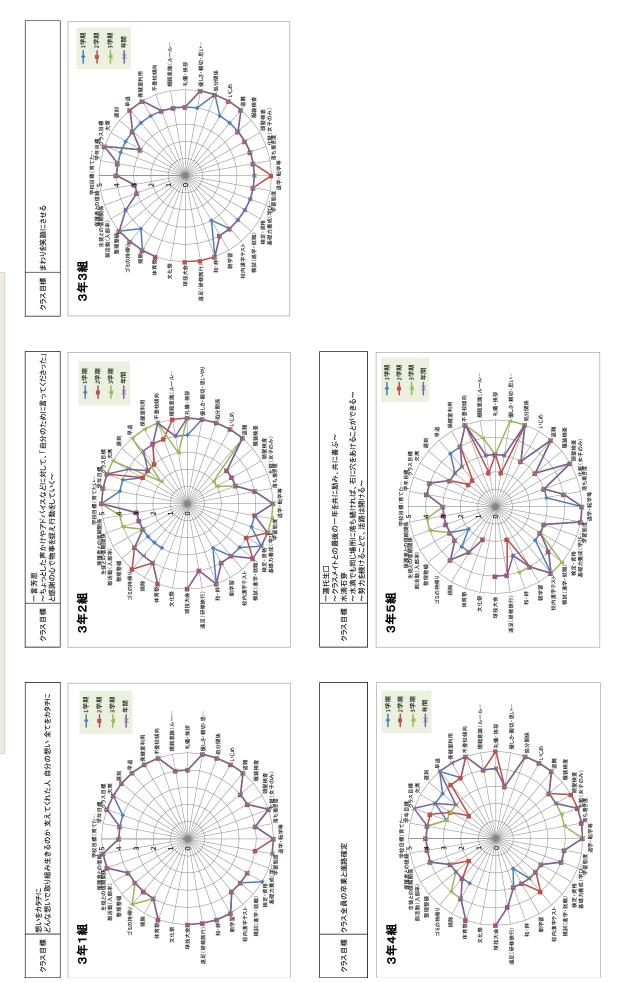
# 令和2年度 担任振り返りシート集計表(1年生)



# 令和2年度 担任振り返りシート集計表(2年生)

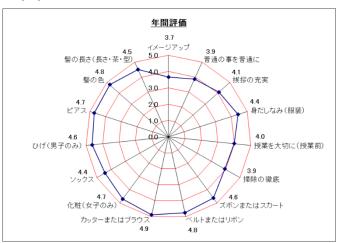


# 令和2年度 担任振り返りシート集計表(3年生)

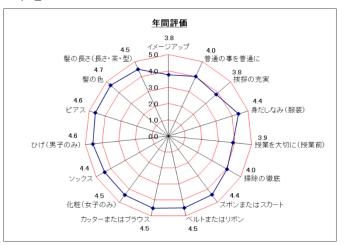


# < 1 年生>生徒自己評価(年間集計)

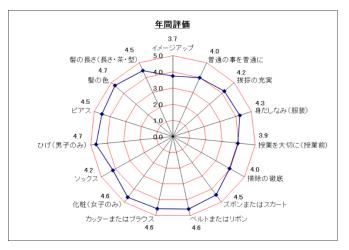
1-1



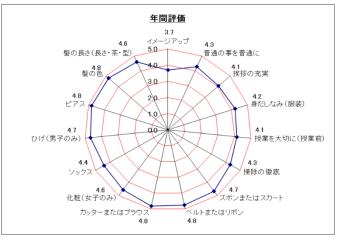
1-2



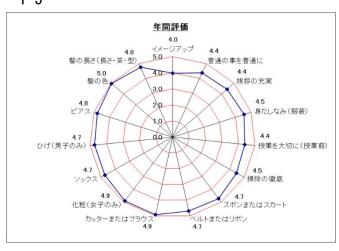
1-3



1-4



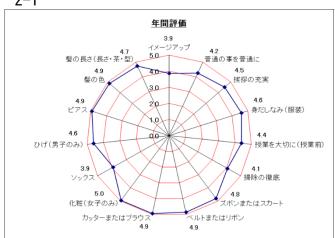
1-5



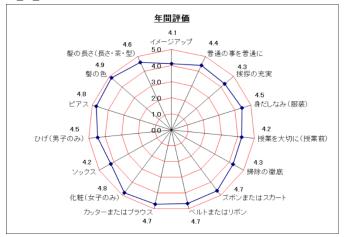
	令和2年を振り返って(担任)
1組	コロナの中で、やるべきことを考え行動してくれた。 検定に向け努力する生徒、目的意識を持つ生徒が増加した。
2組	始めは賑やかなクラスであったが、全体的に落ち着きを持った生徒が増えてきている。生活面の指導をしても効果が長続きせず、そういった生徒はミスマッチを感じているようであった。生活面での支援や指導が必要な生徒が多く、その他の向上心の高い生徒への学習指導などの時間が作り難い。
3 組	元気があった。元気をもらった。元気すぎる所があった。コント ロールが大事。引き続き来年度も頑張ります。
4組	「身の回りの整理整頓(ロッカー、机、靴)」「挨拶(授業前後、教員・ 友人へ)」に関しては一年間徹底してできた。 退学者(2名)、学習室(1名)を出してしまった。
5 組	全体的に欠席は少なく、落ち着いて生活していた。授業や課題を大切にする意識も強くなり、「特進」への帰属意識もできていると思う。初めのグループを超えて交流が生まれ、良い雰囲気になってきた。 遅刻の多さ、その該当者はその他でも不注意だったり、怠慢だったりするので指導が必要。あとは積極性があるとなお良い。 朝学習がしっかりできたので、朝、今くらいの時間が欲しいです。

# <2年生>生徒自己評価(年間集計)

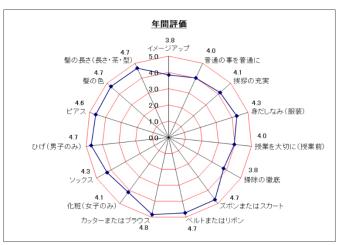
2-1



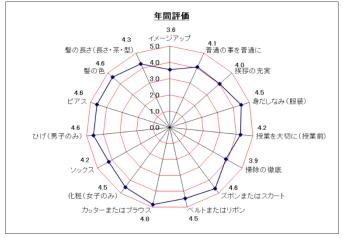
2-2



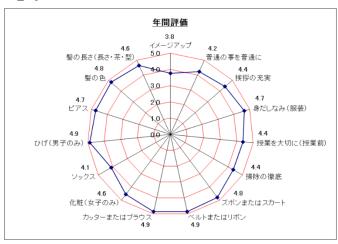
2-3



2-4



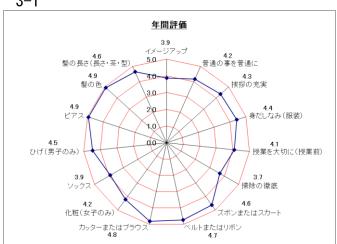
2-5



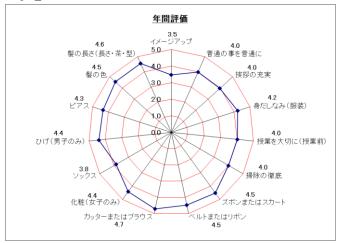
	令和2年を振り返って(担任)
1組	学習姿勢がおおむね良かった。 自覚的行動がまだ足りない。
2組	クラス替えがあり、人間関係がどうなるかと思ったが無事 - 年完走した。遅刻が年間通して多かった。
3組	1 学期に1名の退学者と3学期に1名の進路変更が出たが、残りの26名は松江西高でよかったと思えるようなクラス運営ができた。年間通して遅刻と欠席が多い。進路実現に向けて、最後に締めておきたい。
4 組	様々な学校行事や、テスト、朝学習に一生懸命取り組むことができた。この姿勢を来年度も継続して頑張らせたい。 遅刻欠席、人間関係のトラブルが多い一年だった。進路決定やその 先の人生を見据えて自分のために頑張ることや人との関わり方を学ばせていきたい。
5組	スタディサプリの週末課題への取り組みが良くなり、基礎学力が身に付いた。体育祭や球技大会など学校行事で楽しんでいた。 遅刻。欠席やチャイム行動がルーズで、改善しきれなかった。宿題 以外の家庭学習ができず、テストへ向かう姿勢が良くなかった。

# <3年生>生徒自己評価(年間集計)

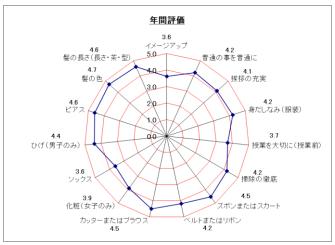
3-1



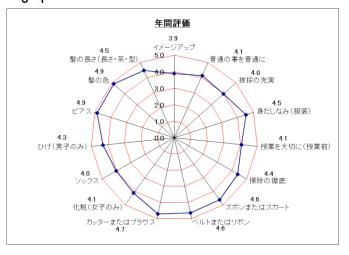
3-2



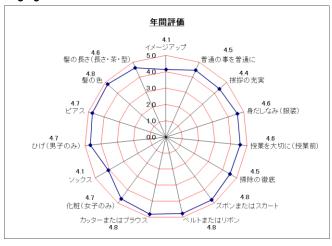
3-3



3-4



3-5



	令和2年を振り返って(担任)
1組	例年とは違う 1 年となったが、その中でもしっかりと頑張るところは頑張り、行事や進路決定を実現することができた。 3 年間クラス、主任、担任も変わらず取り組ませていただいた。3 年間を通し成長とメリハリを持つクラスに成長できたように感じている。 卒業後も思いを大切に頑張っていってほしい。
2組	全員が進路を決めて卒業できた。心の緩みが頭髪に出た。
3 組	先の見えない中での1年間だったが、できることを精一杯頑張ってくれた。進路が決まった生徒たちがこれから受験する生徒たちへの気配り等が課題であった。いかに考えさせるかが課題。
4 組	進路決定に向けて頑張っている姿が見られた。
5 組	居心地の良い状況でない中で、自身のこと、他人のことを考え行動できるようになった。距離を縮めるための取り組みが行えた。

# 令和3年度 松江西高等学校

# 自己点検・自己評価(PDCA)

# <目標・計画>

- 学校評価 (重点課題・徹底したい取り組み等)
- 分掌部評価(分掌部評価表)
- ・学級評価(担任振返シート)
- 生徒自己評価(生徒指導部)

# 令和3年度 学校方針

# 松江西高等学校 重点目標

# 重点課題

(令和4年度実施に向けて)

目の前にいる生徒に即 した魅力あるカリキュ ラム・学科・コースの 見直し









# 徹底したい取り組み

①育てたい生徒像/基礎・基本を身につけ、将来像を もった明るく活力ある生徒

- ■学習面(私は分かる)
- ・高校生のための学びの基礎診断
- ・基礎力養成、学び直し、語彙力養成 (Literas 論理言語力検定)
- ・新しい授業のカタチ (2022 新指導要領実施準備) アクティブラーニング、反転授業等の実践とその評価 ネット学習動画 (スタディーサプリ等の活用)

#### ■生活面(私は守る)

- ・慈にして厳なる指導
- ・いじめ防止対策(未然防止・早期発見とその対応)
- ・基本的生活習慣(時間・挨拶・マナー・規則順守)

### ■CCP教育(私は決める)

・総合探求学習・LHRを活用して2年までに進路の方向性を

決定する

- ・将来像を持たせることで、日々の学習のモチベーション向 上につなげる
- ■部活動、行事の重要性(私は参加する)
- ・部活動、行事を通して明るさと活力を身につける

#### ②その他

- ・地方創生への取り組み/外部(行政・企業・大学・専門学校など)との連携強化
- 支援生徒への取り組み/特別支援、不登校支援・外国籍生 徒支援
- ・学校評価を通して学校運営の改善に努める

# 私学の原理・原則

①経営基盤(生徒数の確保 と維持)の確立の上に 理想があり、教育がある! ②生徒を大切にし、面倒見のいい 私学は生き残る!



③魅力、特色が形骸化し、工夫 のない私学は生き残れない!

# 令和3年度 松江西高等学校 学校評価

# <重要課題>

	PLAN	DO	CHECK	ACTION
重点 目標	重点項目	具体的な取り組み	達成度判定基準	分析(成果と課題)及び改善策
	~どんな生徒を求めているか?~ ①これまでの義務教育を振り返り、これからの高校生活を充実させるための目標を持っている生徒 ②本校の教育テーマである「未見の我の発見」に向けて努力する生徒	①、②については入試説明会、中学校訪問等で伝える。特に①については専願生の面接項目に入れる。	A B C D	(校長)
3つの生徒像	~どんな生徒を育てたいか?~ ・育てたい生徒像である「基礎・基本を見に つけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」 を育てる	基礎学力、基本的生活 習慣、キャリア教育、 部活動・学校行事を通 して、社会人としての 基盤をつくる。また 期ごとにアンケート を実施し、定着度を確 認する。	A B C D	(校長)
	~どんな社会人になってほしいか?~ ・ローカルマインドを持った地域社会に貢献できる生徒 (ローカルマインドとは、地域を知り、地域を愛する心のこと)	約七割の生徒が地元 に残る現状を踏まえ、 地域と連携、協力して 地方創生に協働する 人材を育てる。	A B C D	(校長)
課題	魅力あるカリキュラム・学科・コースの見直 し	目の前にいる生徒に 即した魅力あるカリ キュラム・学科・コー スを構築する。	A B C D	(校長)

# <徹底したい取り組み>

PLAN			DO	CHECK	ACTION					
重点 目標			具体的な取り組み	達成度判定基準	分析(成果と課題)及び改善策					
育てたい生徒像/基礎・基本を身につけ、将来像をもった明るく活力ある生徒		高校生のための 「学びの基礎診断」	年間 1 回(9 月)実施する ことになった。本校にとっ て大きな指標にしたい。	A B C D	(和田)					
	基	基礎力養成対策	A~D層のうちD層の減少 を目標とする	A B C D	(和田)					
	基礎学力養成	学び直し	ベネッセ教材を活用し中学 校時の積み残しを学び直 し、高校教育課程へつなげ る。	A B C D	(和田)					
		語彙力養成	本校の生徒に合った題材を 準備し、楽しく語彙力が身 に付くように工夫し、 Literas 論理言語力検定の 合格者を増やす。	A B C D	(広瀬)					
	新しい授業のかたち	アクティブラーニング等による 「生徒参加型授業」の取り組み	「知識・技能」の習得から その活用へ重点をシフト し、生徒を主体とする授業 の形成に努める。	A B C D	(和田)					

I	基礎学力基盤養成	ベネッセのクラッシー学習 サポート (動画学習) の活用による基礎学力の定 着に努める。	А	В	С	D	(和田)
丁等の活用	進学するための学力養成	リクルートのスタディーサ プリの活用による実力養成 に努める。	А	В	С	D	(和田)
用	就職するための学力養成	SPIの活用による就職試 験に合格できる学力の養成 に努める。	Α	В	С	D	(加藤·加納)
	朝読書の推進	8:30~8:40 朝読書(月、金) を実施する。	Α	В	С	D	(柏尾)
	校内漢字テスト	年6回の漢字テスト、3回 の漢字検定を実施する。	Α	В	С	D	(小澤)
検定		<総合ビジネス科> 簿記、情報、ワープロ、電卓、介護職員初任者研修(旧ホームヘルパー2級)等の 資格取得に努める。	А	В	С	D	全商簿記 全商電卓 全商ビジネス文書 全商情報処理 介護職員初任者研修 (加納)
その他	各種検定資格取得	<普通科> 漢検・英検・日本語検定・語 彙力検定等の資格取得に努 める。	Α	В	С	D	日検ワープロ検定 日検情報処理検定 (加納) 全商英検 実用英検 (須谷) 漢字検定 (田中敏) Literas 論理言語力検定 (広瀬) 日本語検定 (日野)
基木	社会性の育成	社会規範を示し、将来社会 人として自立するための基 本を身につけさせる。校内 外パトロールを通して本校 生徒の実態を把握し、正し い方向に導く。	4	В	С	D	(杉田)
基本的生活習	服装・頭髪	月1回全校一斉検査を実施 し、改善まで徹底指導する。	4	В	С	D	(杉田)
習慣と生	挨拶	全職員による日頃の地道な 指導が大切。	Α	В	С	D	(杉田)
慣と生徒指導	マナー	根負けしない教職員の指導 が大切。	Α	В	С	D	(杉田)
<del>-1</del>	いじめ問題	いじめは未然防止に尽きる。日頃からの全職員による観察が肝要である。いじめは絶対許さない姿勢を 日々示す。	A	В	С	D	(杉田)
			А	В	С	D	〈1年〉 (田中幹)
垃	CCP教育(キャリア教育)	CCP教育を基盤とし、将来像を描ける生徒になるよう、キャリア教育に努める。	Α	В	С	D	〈2年〉 (日野)
将来像			А	В	С	D	〈3年〉 (柏尾)
	進路ガイダンス	進学に関するガイダンス	Α	В	С	D	(加藤·和田)
		就職に関するガイダンス	А	В	С	D	(加藤)

	職場見学、職場体験等の活用 による離職対策	安易な職業選択による離職 率は増加の傾向にある。職 場見学、職場実習の機会を 増やすなど、離職率減少対 策に努める。	Α	В	С	D	(加藤)
	行事を大切にする	師弟が結束して行事に取り 組み、行事を通してクラス、 学年の帰属意識を高める。	А	В	С	D	(坂田教頭)
明るく活力	部活動に入る/入部率向上	入部率70%をめざす。	A	В	С	D	(坂田教頭)
)J	特待生の積極的な勧誘で学校活 性化に努める。	部活動をけん引する特待生 の確保に専念する。 (目標30名)	А	В	С	D	(坂田教頭)

# <継続して取り組む課題>

PLAN DO CHECK ACTION								
重点 目標	重点項目		具体的な取り組み	達成度判定基準	分析(成果と課題)及び改善策			
	入学生	定員176名確保	本校の取り組み・魅力を積 極的にPR。中学校訪問回 数を増やす。	A B C D	(松浦)			
	志願者	数700名	多様化する生徒に対応した本校の受験型と特待制度の浸透に努める。	A B C D	(松浦)			
①生徒数の確保	マスコミ・メディアの活用		本校の行事等をマスコミ に積極的に報道依頼する。	A B C D	(松浦)			
の確保	効果的なイベント		本校に興味・関心が向くよ うなイベントを工夫する。	A B C D	(松浦)			
	入試の改善		改善すべき点、新しく導入 すべき点等を検討する。	A B C D	(松浦)			
	塾対応		塾への訪問回数を増やし、 本校の PR に努める。	A B C D	(松浦)			
②生徒数の維持	退学10名、転出10名、計20名まで に留める		日頃の出欠状況に注視し、 安易な退学、転出の予防に 努める。	A B C D	(校長)			
③その他	支援生徒への対応	不登校の問題	中学校、支援組織等からの 情報を収集し、保護者との 協力のもと不登校の改善 に努める。	A B C D	(小田原)			
他		特別支援生徒	実態をまず把握し、中学校、支援団体等からの助言を得ながら、連携して合理的配慮に努める。	A B C D	(小田原)			

		外国籍生徒学習支援	同時通訳機や日本語指導 員等を活用し、言葉の壁を 軽減したい。学習評価も合 理的配慮が必要な場合は その都度検討する。	A B C D	(広瀬)
		合理的配慮	保護者、担任等からの申し 出を受け、その都度、検討 し、生徒の困り感を軽減す る。	A B C D	(坂田教頭)
		ふるさと教育の実践	ふるさとを知り、ふるさと を愛する人材の育成に努 める。	A B C D	(校長)
	地方創生	地域に貢献する人材の育成	地域に根差し、地域を支える人材の育成に努める。	A B C D	(校長)
		自治会等の連携活動	自治会との連携を密にし、 お互いに助け合う関係を 築きたい。	A B C D	(校長)
	学校評価の推進と学校運営の改善	学校評価	学校の年間重点目標と戦略をPDCAを通して、全体評価する。		(客野教頭)
		分掌部評価表	各学期末、年度末に自己点 検・自己評価を実施する。	A B C D	(客野教頭)
		担任振返りシート	各学期末、年度末に自己点 検・自己評価を実施する。	A B C D	(客野教頭)
		クラス努力目標	努力目標をクラスに掲示 し、振返りシートで反省、 改善に努める。	A B C D	(客野教頭)
	営の改善	生徒自己点検	各学期末、年度末に自己点 検・自己評価を実施する。	A B C D	(客野教頭)
		シラバス学習指導計画	各学期末、年度末に自己点 検・自己評価を実施する。	A B C D	(原田)
		授業評価	Classi によるアンケート 調査を実施する。	A B C D	(原田)

# <集計>

評価項目 (5 1)	A/?	B/?	C/?	D/?
---------------	-----	-----	-----	-----

# 令和3年度 松江西高等学校分掌部年間目標と計画

# 1. 教育理念

#### (1) 本校の使命(ミッション)

建学の精神である「真に社会に役立つ実践的人材の育成」を使命とする。基礎・基本を身につけ、人格の形成に主眼を置いた教育実践を通して、地域に根差し、地域の期待に応える学校づくりを推進する。

#### (2)使命の追求を通して実現しようとする本校の生徒像(ビジョン)

本校の育てたい生徒像である「基礎・基本を身につけ、将来像を持った明るく活力ある生徒」具現化のための重要ポイント

- 1 基礎力養成補習、学び直し、語彙力養成を通して基礎学力を養成させる
- 2. 平素の学校生活を通して正しい服装と礼儀・挨拶を習得させる
- 3. CCP教育、インターンシップを通して将来像を持たせる
- 4. 部活動、学校行事を通して明るさと活力を身につけさせる

2. <b>分掌部年間目標・計画・評価</b> 評価 1 よくできなかった/ 2 まずまずだった/ 3 大変よくできた									
分		年間重点目標	当 担	目標達成のための計画	評価	評価	評価	評価	
掌	① ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) (		入試課	・松江西高タイムス・学校案内発行 ・学校紹介ビデオ・パワーポイント作成 ・中学校における進路説明会実施 ・中学校教員対象入試説明会実施 ・中学生・保護者対象入試説明会の実施	(1学期)	(2学期)	(3学期)	(学年)	
	②円滑な学校運営		総務課	・年間行事計画作成・調整 ・職員会議企画・運営、会議録の作成・資 料保管 ・学校要覧、職員名簿・緊急連絡網・身分 証明書等の作成 ・100 周年資料の収集・整理・保管		2			
			式 典 課	入学式、卒業式、始・終業式等の企画実施					
総務部			総 務 課	入学試験の企画・実施、入試関係事務処理					
			入 試 課	専願合格者入学前指導、新入生一日入学 企画・実施					
			厚 生 課	・各種育英資金募集についての連絡・相談 ・学校生協関係の連絡・事務 ・慶弔に関する庶務					
	③施設設備の管理・保全		施 設 課	・校舎・施設、机・椅子等の破損調査整備 ・校舎内外の環境整備・美化					
	④防災体制の確立 素 素 素 素		総務課	・防災組織の整備、研修・訓練の実施と 検証 ・防災教育の企画・実施 ・緊急時一斉メール配信システムの整備 と管理 ・防災設備の点検・整備					
	⑤学校広報の推進		施設課	・西高だより(年2回)・「がんばれ西高!」 (随時) 発行 ・学校ホームページ更新					
	①授	①授業の管理 ②授業時数の確保		・授業変更は原則1日4時間以内で、同 ークラス同一教科が無いようにする が、できない場合は自習とし、学年部 等に依頼する。					
教務部	②授			・時間短縮等で学校行事等とのバランスをとる。					
	③基	礎学力の向上に努める		・補習の計画に取り組む。					
	4新	課程への対応		・新カリキュラム作成					

1			・進学指導部とタイアップしてD3の減	1		1
	⑤基礎学力の向上に努める	学習指導課	・進字指導部とダイアップして D3の減少を図るとともに、全体のレベルアップに努める。			
	⑥朝学習の活用(1 学期の一斉の 取り組みは見送る	導課	・朝の語彙力養成の定着に努める。			
	⑦公開授業を行うと共に、授業 改善課と連携	研修課	・教科主任と協議してベテラン・中堅・若 手の数、教科のバランスを考慮する。			
	⑧読書週間(読み聞かせ)の活用	図書課	・朝読書への取り組み			
	⑨授業の工夫	120	・機器の利用等			
	⑩アクティブラーニング	授業改善課	・研修会の実施			
	⑪総合学習と総合探求	环	・学年主任との協議と外部情報を考慮			
	①環境美化の推進		・ゴミ処理の円滑化 ・清掃活動			
保健部	②健康管理の徹底	保健課	・生活改善(食事・睡眠・ネット依存)についての指導・健康観察などから心身の問題の早期発見、早期対応・感染症予防について生徒、教職員への指導			
ab,	③各諸問題に関わる研修		・時代や状況に応じた研修会を実施。			
	④保健部に関する各種統計		・保健室利用者及び疾病の種類の把握と 推移 ・各検査健診結果統計			
	①あいさつの充実		生徒会・学年部との連携			
	②身だしなみを整える		生徒会・学年部と連携 頭髪、服装指導(月1回)			
	③時間を守る	生徒指導課	授業管理の徹底(教室巡回) 体系的な遅刻指導			
	④掃除の励行	課	保健部や生徒会との連携による推進			
	⑤各種規定の見直し		関係各所へ意見集約 規定にないルールの再検討			
生徒指導部	⑥校内の生徒指導体制の確立		課会の開催(増) 聞き取り調査の役割分担			
部	⑦法令遵守の精神を養う		交通マナー指導、運転免許取得指導			
	⑧交通事故を防ぎ、生徒の命を 守る。	交通指導課	街頭指導、通学経路指導、変形自転車指導			
	⑨自転車のマナーアップと盗難防 止	課	自転車ステッカー貼付・施錠指導			
	⑩学園祭の充実	生徒会課	企画・運営・準備に生徒指導部が関わる。			
	⑪生徒会行事運営の円滑化	会課	生徒会内での連携強化			

	①人権尊重と差別のない学校 づくり	人 権	教職員研修の実施 校外での講演会参加の呼びかけ		
	③生徒相互の人間関係の構築	人権同和課	アンケートQUの実施 各学年部・担任との連携		
進	①生徒の進路保障 ・学校斡旋による就職内定率と 定着率の向上を目指す。 (学校斡旋内定率 100%) (3 年以内離職率 20%以内) ・公務員希望者への対応 ・縁故就職者への支援 (ビジネスマナーの定着)	職業指導課	・面談を重ねることにより、それぞれの適性に応じた指導を目指す。 ・基本的生活習慣や学力を身につける・遅刻・欠席の多い生徒や意欲のない生徒への対応 ・ハローワークや関係諸機関との連携を強化 ・早期離職を防ぐためにジョブフェアや応募前見学等を活用する。 ・夏季補習や採用試験に対応できる対策をとる。(作文・SPI検査など)		
	②社会人としての素養を高める ・キャリア教育の実施。 ・社会人基礎力を育てる。 「遅刻・欠席をしない」 「挨拶をする」 「コミュニケーションカ」		・校内での挨拶・言葉の使い方・服装頭髪・外部講師による講話やマナー指導実施・面接指導を通して、社会人としてのマナーを身につけさせる。また、自分の意見を相手にきちんと伝えられるようにする。		
	③応募前見学、企業ガイダンス の実施 ・県、市、ハローワークと連携		・求人票だけでなく、ガイダンス・職場体験を通して、実際の仕事や職場の状況を知り、職場選択の取り組みを促す。 ・就職先の新規開拓をする。		
	④インターンシップの実施 ・2 年生の 10 月~11 月実施		・インターンシップの実施により、上記に ある社会人としての素養を高め、「卒業 後は社会人になる」という意識を学年全 体・学校全体で持つようにする。		
路指導部	⑤総合ビジネス科で取得できる上級資格を利用した入試での上級(国公立大学も視野に入れた)学校への進学 (昨年1名→3名以上)		・本人の希望に合わせて、上級資格を利用できる入試がある上級学校を紹介する。 ・選抜方法に合わせた個別の受験対策を 早期より行う。		
	⑥進学実績の向上・拡大 ・国公立大学の合格者数を昨年 以上にする (昨年0名→2名以上) ・大学・短大の合格者割合を増 やす。 (昨年36%→45%へ)	進学指導課	・進学希望者対象補習を一般選抜も視野に入れて早期より計画的に行う。 ・総合型・学校推薦選抜に向けた小論文対策として5月に添削模試を行う。 ・大学、短大との連携の強化・拡大を図る。 ・模試を有効に活用(特に、復習と学習方法の検討)する。		
	⑦スタディサプリの有効活用 ・特別進学コースにおいて、家庭学習を定着させて受験の基盤となる学力を身につけさせる。 (平日1年1h、2年2h、3年3h 休日1年3h、2年4h、3年5h ※3年部活動生徒は-1h)		・週末課題→週明けチェックテスト→復習の流れで家庭学習のきっかけを作る。 ・到達度テストの結果から個別の学習計画を各自で作成する。 ・学びの振り返りをすることで学習に対するメタ認知をさせる。 ・各学期に 1 回家庭学習時間調査を実施し、反省や改善の材料とする。		
	<ul><li>⑧Classiのポートフォリオ機能の活用・新入試に対応できるようにポートフォリオを記録する。(提出率100%になるように)</li></ul>		・年間計画を示し、担当者からポートフォリオ課題を配信する。 ・大学入試改革によるポートフォリオの 必要性を説明する機会を作る。		

			·		
	①出席率を95%以上に ②転退学者6%以下に	一年部	・担任と教科担当とのコミュニケーションを大切にする ・担任の個性を生かしたクラスづくりをするとともに、いじめや無視など、日々の生徒の変化に迅速に対応する ・保護者への電話連絡や家庭訪問を必要に応じて行う ・各委員会の長との連絡を密にし、生徒の情報を共有する		
	③遅刻率を5%以下に	. 部	・始業のチャイムとともに行動させる ・HRを通じて、基本的生活習慣を身につけることの大切さ、その行動が進路決定に影響するということを理解させる		
	④部活動入部率を70%に		・部活動や全ての学校行事等にポジティ ブに挑むとともに、協調性を身につけ、 その大切さを学ばせる		
	①学年末評価点のアップ 総合ビジネス科 5.0⇒5.3 以上 普通科総合 5.1⇒5.4 以上 普通科特進 5.3⇒5.6 以上		・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		
	②出席率の向上 96.2%⇒97.0%以上				
	③遅刻率の減少 4.5%⇒2.0%台	二 年 部	・保護者への電話連絡や家庭訪問を適時 行う。 ・担任の個性を生かしたクラスづくりを		
	④転退学率の減少 5.4%⇒2.0%以内		するとともに、いじめや無視など、日々 の生徒の変化に迅速に対応する。		
学	⑤皆勤者の増加 22 名⇒30 名以上		・生徒の情報を学年部で共有する。		
学年部	⑥部活動入部率を55%以上キープ		・部活動や学校行事等を通じて協調性を 身につけ、継続と努力の大切さを学ばせ る。		
	①基本的生活習慣の確立 ・遅刻率を3%以下に (1年次3.8%・2年次5%) ・出席率を97%以上に (1年次93.8%、2年次95.8%) ・皆勤者を30名以上に (1年次14名、2年次25名)	三年部	・8:40には登校し、朝読書(朝学習)の時間を活用する。 ・遅刻をする場合は必ず保護者から学校に連絡する。(通院する場合も事前に連絡) ・欠席が多いと進路決定に大きく影響し、周囲にも迷惑をかけていることを理解させる。 ・生徒指導部の遅刻確認書(保護者確認)や遅刻防止の自己分析をさせる。		
	②基礎学力の向上と学習習慣の涵養 ・漢字テスト 平均70点以上・各種検定試験(3級以上)への挑戦		・新聞、本を読むことを勧める。 ・進路先に提出する書類に記入できるような各種検定試験の3級以上の合格を目指し、学習習慣を身につけさせる。 ・合格することで自信をつけさせる。		
	③121名全員の卒業 ・年度末の追試対象者数を15名以 下に		・授業に集中させる。 ・普段の授業を大切にさせ、保健室の利用 を少なくする。		
	④将来のビジョン化 ・進路選択能力の育成 ・コミュニケーション動力の向上 ・マナーや言葉遣いの習慣 ・希望進路の実現 100%		・探究学習、小論文学習の授業を充実させる。 ・履歴書や志望理由書の書き方を学ばせる。 ・面談はもちろんのこと、普段の生徒との会話からもコミュニケーション能力の向上を目指し、進路選択のことが意識できるような仕掛けをしていく。 ・進路ガイダンスや講演会等で外部講師の方から刺激を与えてもらい、生徒が将来のことを考える機会を増やす。 ・社会性を身につける。 ・スケジュール管理させる。		

# 令和3年度 松江西高校 努力目標

# 建学の精神

真に社会に役立つ実践的人財の育成

# <u>教育テーマ</u>

未見の我の発見

# 育てたい生徒像

基礎基本を身につけ、将来像をもった明るく活力のある生徒

# 第1学年努力目標

- ①基本的生活習慣の確立
- ②基礎学力の向上・定着
- ③未見の我の発見

# クラス努力目標

1年1組(加納) 高校生として

1年2組(吉原) ①互いに思いやりを持って行動する

②身の回りをきれいに保つ

③ 挑戦し続ける

1年3組(小豆澤)目標・夢中になれるものに全力投球

まだない人は見つける!さがす!

1年4組(須谷) 積極的に取り組む

(挨拶・授業・掃除・部活動)

1年5組(広瀬) 自己創造

~Self Creation~

# 第2学年努力目標

- ①何事にも全力で取り組む姿勢(本気を出す)
- ②学校行事等への積極的参加(自分と仲間を大切に)

## ③明るい挨拶(良い人間関係を築こう)

# ④進路のビジョン化(資格の取得、探求学習など)

# クラス努力目標

2年1組(遠藤) 時を守れ・場を清めろ・礼を正せ

2年2組(池上) 自分自身を超える

2年3組(井畑) 朝は希望に起き 昼は努力に生き 夜は感謝に眠る

2年4組(浅津) 「できる」を増やす

2年5組(金崎) 「シェア」

①知識を分け与える

②思いを分け与える

③時間を分け与える



# 第3学年努力目標

- ①基本的生活習慣の確立
- ②基礎学力の向上と学習習慣の涵養
- ③121名全員の進級
- ④将来のビジョン化

# クラス努力目標

3年1組(田中敏) 頑張ることのできる力を身につける

すべてのことが、進路に、卒業に、そして、

そのあとの人生につながっている。

3年2組(小川武) 熱く生きる

3年3組(田部) 本気

3年4組(小澤) 「死ぬ気」を身に付ける

3年5組(和田) (2-5 不成功できる集団)

語れる集団

(多くのことを経験しよう

自分で決断して行動しよう

自信を持って進路選択しよう

# 担任振り返りシート ( )年( )組 担任(

)

クラス目標

	点検項目	1学期	2 学期	3 学期	年間
目標	学校目標				
	学年目標				
	クラス目標				
出欠	欠席				
	遅刻				
	早退				
	保健室利用				
	不登校傾向				
<b></b>	規範意識(ルール厳守等)				
モラ	礼儀・挨拶				
ル	優しさ・親切・思いやり				
	処分関係				
	いじめ				
	盗難				
問題行動	服装検査				
行動	頭髪検査				
到	化粧(女子のみ)				
	落ち着き度				
	退学・転学等				
	学習態度				
	基礎力養成(学び直し)				
学習	検定・資格				
習	模試(進学・就職)				
	校内漢字テスト				
	朝読書				
	和・絆				
帰	遠足 (研修旅行)				
帰属意識	球技大会				
識	文化祭				
	体育祭				
<b>1</b> ==	掃除				
環 境	ゴミの持帰り				
	整理整頓				
そ	部活動(入部率)				
の	生徒との信頼関係				
他	保護者との信頼関係				

記入は5段階(5/優 4/良 3/普通 2/やや悪 1/悪 )でお願いします。

	記述欄
	良かった点
1 学期	悪かった点
	その他(気づきがあれば書いてください)
	良かった点
2学期	悪かった点
	その他(気づきがあれば書いてください)
	良かった点
3 学期	悪かった点
	その他(気づきがあれば書いてください)
	良かった点
	悪かった点
年間	その他(気づきがあれば書いてください)

	〇年〇組 生徒自己評価チェック(年間集計)						
	チェック項目	1 学期 平均	2 学期 平均	3 学期 平均	年間平均		
1	イメージアップ						
2	普通の事を普通に						
3	挨拶の充実						
4	身だしなみ(服装)						
5	授業を大切に (授業前)						
6	掃除の徹底						
7	名札						
8	ズボンまたはスカート						
9	ベルトまたはリボン						
10	カッターまたはブラウス						
11	化粧(女子のみ)						
12	ソックス						
13	ひげ(男子のみ)						
14	ピアス						
15	髪の色						
16	髪の長さ(長さ・茶・型)						
	集計						

